

## 護摩堂建立事業概要

### 法海寺護摩堂建立趣意書

法海寺の開基は、新羅国明信王の太子の道行法師といわれ、由緒は「日本書紀」巻27の天智天皇7年の条に沙門道行として登場している。この沙門道行は当地に堂宇をいとなんでいた。そして、天智天皇の御不例を当山御本尊に祈願して平癒した功によって、「薬王山法海寺」の勅額と寺田280町歩を賜った。

時に、天智7(668)年、当寺の創建とされ、以降、淳和天皇に至る13代の勅願寺として堂宇壯観、内外12院があったと伝えられている。

法海寺は、平安仏教の巨星、最澄(伝教大師、767～822年)を開祖とする、比叡山延暦寺を総本山に仰ぐ天台宗のお寺です。開祖最澄の誕生以前に創建された知多半島屈指の古刹でありながら、今日まで本格的な護摩堂を持つに至っておりません。天台宗においては欠くことのできない最も重要な護摩法要を、総本山の正式な行法に則って執り行うことが長年の悲願となっていました。

ここに、当八幡地区の発展と全住民の御加護を祈願する護摩堂の重要性をご賢察願い、建立事業推進のための格別なる浄財のご喜捨を賜りたく、謹んで、絶大なご支援・ご協力をお願い申し上げます。